

糖尿病をもつ女性への妊娠準備期の実態調査

～ 質問表と面接法による知識の実態と不安内容の明確化 ～

キーワード 糖尿病 計画妊娠 妊娠準備期 不安 知識

北 4 階病棟 ○宮久みかさ 福島廣美 田中多喜子

茶木原あかね 平川景子

はじめに

女性としてのライフサイクルの中で妊娠、出産は最も重要なイベントである。それは、糖尿病の女性にとっても同様である。しかし、血糖コントロール不良の為、妊娠継続を断念するケースや、不安な妊娠経過を送るケースも少なくない。児の先天性奇形は妊娠3週から8週の血糖コントロール不良により生じるとされ、妊娠が判明してから血糖コントロールをしても間に合わない。このような状況を避けるためにも、妊娠可能な時期から血糖コントロールを良好に保ち、計画妊娠を行う必要がある。当部署でも血糖コントロール不良で妊娠し、糖尿病教育目的で入院する事例と関わり妊娠準備期からの教育の必要性を感じた。以上のことから、糖尿病の女性の妊娠準備期における知識と不安の実態を明らかにし、女性が主体的に取り組めるように保健指導に役だてていきたいと考え、調査した。

【用語の定義】

- ・ 計画妊娠：妊娠を希望した時点で合併症がないかなど細かい検査を受け、十分に血糖値をコントロールしてから受胎すること。

【倫理的配慮】

- ・ 無記名のアンケート紙とする
- ・ 個室での面接を行う。

【研究方法】

- (1) 研究デザイン：事例研究
- (2) 研究対象：17歳から28歳までの女性6名
- (3) 研究期間：平成18年6月～12月
- (4) データの収集方法：質問紙一指導後、計画妊娠に関するアンケート調査
- (5) 面接法：パンフレットを用いて指導

I アンケート結果（表1参照）

1. 知識について

- * 自分の月経周期は6人中6人が把握できている
- * 基礎体温の知識は6人中5人がない
- * 計画妊娠の必要性があることを6人中5

人が知っている

- * 妊娠許可条件のHbA1cの値は6人中6人が知らない
- * 避妊の実施は必ず行う人が6人中3人で、時々しないが3人であった
- * 避妊の方法はコンドームのみが6人中6人であった
- * 性教育を受講歴は6人中4人があった(小学生～高校生)。2人が記憶にないであった。
- * 性教育受講歴がありと答えた中で4人中1人は高校時に妊娠・避妊について、3人は覚えていない、1人は中学時サマーキャンプで性教育を受けた。
- * 知りたいことについては6人中5人が具体的な内容を挙げた。1人はイメージがつかないと答えた

2. 不安について

- * 相談者は6人中4人が母親もしくは友人と答えた。2人がなしと答えた
- * 6人中5人は将来育児希望がある
- * 妊娠、出産に対する不安は6人中5人があり、1人が分からないと答えた
- * 不安内容は6人中5人が児への影響を挙げた

3. その他

- * 婚約中が6人中3人、パートナーありが2人、なしが1人であった
- * 面接時のHbA1cの平均値は9.7% (7.0～14.8%)であった。

II 考察

1. 全員に計画妊娠が必要との認識があっても、具体的な知識(妊娠許可条件や家族計画)は無かった。中にはHbA1cが許可基準(HbA1c 6.0%以下、許容範囲7.0%以下)以上で予定外の妊娠をした人もいた。妊娠後に奇形児の可能性などの説明を受け妊娠前に聞いたかったという反応があった。今回の結果では全員が妊娠許可条件のHbA1cよりも高値であったが時々しか避妊をしていない人もおり妊娠の可能性もありうる。

Kitzmilller らの研究によると妊娠前管理が行われなかった群の奇形発生率は平均 7.8% に比し、妊娠前管理を行った群では平均 2.8% と一般人口の奇形の出現頻度とほぼ同じか、より低い値にまで減らすことができたことが証明されている。当部署でもパンフレットを作成・使用し安全な妊娠・出産を迎えるために血糖コントロールや合併症の管理・計画妊娠について教育を試みている段階である。糖尿病をもつ女性への専門職による妊娠前管理として具体的な避妊法と計画妊娠の重要性についての教育を徹底することが大きな課題である。

2. 性教育に関する高知県中央西保健所の研究によると思春期を対象とした講義形式の性教育は知識増には効果があるものの意識改革には効果が少ないといわれる。今回の対象者でも性教育を受けた経験があっても記憶に残っていない。そのため、基礎体温や避妊法の具体的な内容を含め基礎的なことから指導した。今回、思春期にあたる対象者は、パートナーがおり、性行動の経験があった。家族背景が複雑で親からのサポートが十分でない状況であった。この情報を踏まえ、慎重に指導を行った。本人からは、「知らないことを聞いてよかった。」と反応があったが、思春期という多感な時期であるため、どのような反応になるかが予測できず、内容や伝え方が難しいと感じた。近年では、性行動が若年化し、かつ様々な問題を抱えている家族が多いといわれている。思春期における避妊などの知識を早期から得る必要はあるが、捉え方は様々であり家族背景なども考慮し、慎重に検討しながら指導を行っていく必要がある。

3. 対象者は妊娠・出産に対し、専門的な知識を得たいと思っていた。今回は助産師が指導を行った。対象者の中には、男性の医師には、性に関することは話しにくいという意見も聞かれた。松尾は医療者に聞きたくても医師の多くは男性なので聞きにくいとの意見もあり、女性が多い看護師が指導を行うことで信頼関係を育み妊娠・出産においても強みになると述べている。そのため、専門職である助産師や糖尿病の知識を持つ看護師が介入することで安心と信頼を得て関われることができると思われる。また、糖尿病をもつ女性で、出産して幸せに生きている人の話が聞きたいとの意見もあった。バンデューラが提唱する自己効力理論から考えると、モデリン

グを活用することで、自己効力を高め、自分にも同じ体験ができるという自信につながると思われる。今後、モデリングを活用した指導も取り入れていきたいと思う。

4. 妊娠・出産に対する不安は児の影響にすることが主だった。児の奇形などについて少しの情報得ており、それがどうしたら防げるという具体的な手段を知らないため不安が増強していると思われる。今回の対象者の中にも婚約中で挙児希望の人がいた。面談の中で奇形児を出産した糖尿病をもつ友人がおり、本人も不安を抱えていることが分かった。それに対し指導を行い、反応として「HbA1c を 6.0% にすることにはまだ不安は少しあるが、指導をもらって妊娠に向けて頑張ろうという気持ちが湧きました。」と言われた。8 ヶ月後の現在 HbA1c 6.0% 台で経過している。面談を行うことで不安の表出ができたこと、計画妊娠の必要性・方法を知ったこと、教室を受け糖尿病に関する正しい知識を得て血糖コントロールの方法を学んだことが良い結果へと繋がったと思われる。ペプロウは、看護師はカウンセラーの役割もあり、患者は自分を表出する場が必要でそのことで患者が自分自身のことを理解し、看護師も患者が何を望んでいるかを知ることができると述べている。今回の面談により、対象者は自分の思いを語ることで自分自身の思いに気付き、自分を理解してもらったと感じ、看護師も対象者の不安や望んでいることを知ることができた。今後も、対象者の話を十分に聞き、個別性に合わせた指導を行っていくことが重要と考える。

III 結論

1. 計画妊娠が必要という認識はあっても具体的な知識はないため、専門職による具体的な避妊法と計画妊娠の指導が必要である。
2. 性教育の経験はあっても記憶は残っていないことがあるため、基礎的なことからの指導が必要である。また、思春期からの指導は必要であるが、家族背景などを考慮し、慎重に行う必要がある。
3. 専門的な知識を得たいと思っており、専門職である助産師や糖尿病の知識をもつ看護師が介入する必要がある。
4. 妊娠・出産に対し、不安を持っているため、対象者の話を十分に聞き、個別性に

合わせた指導が行うことが必要であり、不安の軽減にもつながると思われる。

おわりに

今回の研究を通して糖尿病をもつ女性の心理を知ることができ、また、同じ女性としての思いに共感した。糖尿病である前に一人の女性として捉え、女性のライフサイクルと糖尿病を関連させてケアを行う必要を実感した。そして、看護師・助産師・医師各々の役割を発揮し、糖尿病をもつ女性を支えていきたいと考えている。

表 1

	A	B	C	D	E	F
年齢	26歳	26歳	28歳	24歳	20歳	17歳
自分の月経周期	だいたい分かる	だいたい分かる	だいたい分かる	だいたい分かる	だいたい分かる	だいたい分かる
基礎体温の知識	なし	あり	なし	なし	なし	なし
避妊の実施	必ず行う	必ず行う	まれにしない	必ず行う	時々	時々
避妊法	コンドーム	コンドーム	コンドーム	コンドーム	コンドーム	コンドーム
計画妊娠の必要性	まあ知っていた	まあ知っていた	まあ知っていた	まあ知っていた	まあ知っていた	知らない
HbA1cの知識*1)	なし	なし	なし	なし	なし	なし
性教育受講歴	あり	記憶にない	あり	あり	あり	記憶にない
いつうけたか	小・中・高	ない	小・中	高校	サマーキャンプ *2)中・高	よく覚えていない
どのような内容であったか	高校時妊娠避妊について	覚えていない	内容を忘れた	覚えていない	中学生の時、聞いたけどまだ関係ないと思っていた	覚えていない
性に関する相談者	母	なし	母・友人	なし	友人	友人
育児希望の有無	あり	なし	あり	あり	あり	あり
知りたい事	性についてのイメージがつかない 高齢出産とDMの関係 妊娠中のBSコントロールについて	妊娠しやすい時期 妊娠しにくい時期 完璧な避妊法 出産して幸せに生きている人の話 が聞きたい	妊娠中の状態 自分と胎児に及ぼす影響	遺伝のこと イメージがつかない	奇形児の発生率 無事に健康な赤ちゃんを産んで育てている人の話 が聞きたい	イメージがつかない
妊娠・出産に対する不安内容	奇形児・巨大児が心配	児への影響	児への影響	糖尿病が遺伝するかが心配	児への影響	分からない
パートナーの有無	婚約中	あり	婚約中	なし	婚約中 妊娠10週	あり
面接時のHbA1c	8.4%	14.8%	9.4%	7.0%	8.0%	10.7%

* 1) HbA1c: 妊娠許可条件の中の HbA1c の値

* 2) サマーキャンプ: 小児糖尿病患者と関係者の集まるキャンプ、患者間や関係者との交流、子供の自立を促すことが主な目的である。

【引用・参考文献】

- 1) 福井トシ子編著: 糖尿病妊婦の周産期ケアメディ出版 2005
- 2) 豊田長康編集: 女性の糖尿病 診療ガイドランス メジカルビュー社 2004
- 3) 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問ナースング・トゥデイ 2003
- 4) ペプロウ: 人間関係の看護理論
- 5) 中西睦子監修: 成人看護学—慢性期 建パク社 2005